

(様式5)

調査報告書

訪問調査日	平成20 年 12 月 3 日
調査実施の時間	開始 10 時 00 分 ~ 終了 15 時 30 分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 岬 (鹿児島県)
-------------------	-----------------------

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名 <u>藤田泰洋</u>
	氏名 <u>腰 高行</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>有川春枝</u>
ヒアリングを行った職員数 <u>3 名</u>	

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月10日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4679500126号		
法人名	株式会社インターナショナル・ホスピタル・サービス		
事業所名	グループホーム 岬		
所在地	鹿児島県大島郡知名町田皆2241番地 (電話) 0997-93-1502		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号		
訪問調査日	平成20年12月3日	評価確定日	平成20年12月20日

【情報提供票より】(20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年1月12日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤6人, 非常勤2人, 常勤換算8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2階建ての ~1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	日額100 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	9名	男性 3名	女性 6名
要介護1	0名	要介護2	1名
要介護3	4名	要介護4	1名
要介護5	3名	要支援2	
年齢	平均 80.3歳	最低 68歳	最高 95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	沖永良部徳洲会病院、松尾歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは田皆字の中心街にあり、近隣に小・中学校、駐在所、保育園、公民館、ふれあい館、薬局、雑貨店など、字の中核機能が集まっている。診療所の跡を改造して作られたグループホームで、地域からは健康相談などの身近な頼りになる所として、子どもから大人まで気軽に入り出している。入居者も地域に溶け込んで一緒になってゴミステーションの清掃活動などしている。職員は向上心が強く意欲的に仕事に取り組み、重度化や、最後の看取りも前向きに取り組んでいる。利用者と職員がまるで家族のようにお互いに支えあっている心温まるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題なし。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価に取り組み、かねてなおざりにしがちな点について改めて気づき、改善するなど前向きな取り組みがなされている。外部評価については、評価活動の中での気づきや、評価結果を会議で協議しサービスの向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政や地域代表・家族代表などの参加の下に、グループホームの運営状況の報告や、職員の異動等を報告し、家族や役場職員からの意見や要望などが出され、できるものから実践し、サービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	地域の民生委員に第三者委員になってもらい、家族が面会等に来所する折などに、気軽に何でも相談できる体制を作っている。また、運営推進会議にも家族代表が参加し意見を言えるようにしている。出された意見等は職員会議などで対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	小学生の職場体験の場となっている。地域の小学生たちが、学校帰りに「ただいま～」と立ち寄り、入居者と談笑したり、宿題をして帰ったりしている。入居者が近くのごみステーションの掃除を職員と一緒にすることで、地域に根ざした交流が進められている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念を「馴染みの顔、馴染みの環境があれば認知症の人でも自分らしく生きられる」ことを理念の柱にし、地域の中での生活を支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新規採用時の研修で理念をしっかり教育している。朝礼時に理念を唱和して仕事に入るようにしている。また、職員会議や研修会の際にも、お互いに確認し実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学生の職場体験の場となっている。地域の小学生たちが、学校帰りに「ただいま～」と立ち寄り、入居者と談笑したり、宿題をして帰ったりしている。入居者が近くのごみステーションの掃除を職員と一緒にする中で、地域に根ざした交流が進められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組み、かねてなおざりにしがちな点について改めて気づき、改善するなど前向きな取り組みがなされている。外部評価については、評価活動の中での気づきや、評価結果を会議で協議しサービスの向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政や地域代表・家族代表などの参加の下に、グループホームの運営状況の報告や、職員の異動等を報告し、家族や役場職員からの意見や要望などが出され、できることから実践し、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場の担当職員が資料や情報を携えてホームに尋ねて来るほか、グループホーム側からもホーム便りを届けたり、運営上の助言を求めたりして、サービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態や生活ぶりは、面会時や電話・「ホーム便り」・ビデオなどでこまめに伝えている。また、健康状態によっては家族と同行受診をして連携を深くしている。金銭管理は本人管理のできる人に支援している。職員の異動は面会時や「ホーム便り」で伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域の民生委員に第三者委員になってもらい、家族が面会等に来所する折などに、気軽に何でも相談できる体制を作っている。また、運営推進会議にも家族代表が参加し意見を言えるようにしている。出された意見等は職員会議などで対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動によるダメージを少なくするために、利用者への入念な引継ぎの時間をかけて行っている。また、新しくきた職員に対して利用者がホームの案内役をするなどしてなじみの関係を築くように工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の計画的な育成に、法人としても積極的であり、法人内での研修会のみならず、島内外の研修に派遣し、又、資格取得にも勤務時間の調整など配慮している。施設長も資格講座の研修講師を担当し育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区グループホーム連絡協議会主催の研修に参加し同業者との連携触発しあっている。また、地域のグループホーム間で職員の交流研修も始めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学に来て、お茶を飲んで帰ったり、洗濯物を一緒にたたんだりして、交流を図り馴染みながらサービス利用に移行できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物を早く乾かせるコツやたたみ方のコツ・郷土料理の作り方・人への接し方など教えてもらったりしながら共に支えあっている。作業をしながら成功したら喜び、落ち込んでいたりすると慰められたりしながら、持ちつ持たれつ支えあっている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の意向や思いを汲み取り、「驚きノート」に記録し、朝礼のとき気づきを皆で交換し、職員間で洞察力が高まってきている。気づきが遅れて失敗などあると職員のほうが「私が気づくのが遅れてごめんなさい」などと優しい対応が見られるようになっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日ごろからの本人や家族の意向を把握し、家族も参加してケア会議を開き、3ヶ月に1回のモニタリング結果も反映しながら、利用者本位のプランづくりをしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画のモニタリングや家族や本人の意向を踏まえて、期間満了前に見直しをしている。状況の変化時には家族や本人の意見を中心に計画の見直しをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	馴染みの理髪店への移動支援、自宅訪問、通院支援、外泊など特別な外出支援を柔軟に実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医での受診を支援している。受診結果については家族と情報の共有をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期の支援についてホームとしての考えを家族にも説明している。家族・主治医の協力の下で、できる限りの支援をする方針を職員間でも確認しているが、あくまでも、その時々々の関係者の協力状況や主治医の方針による。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入職時にプライバシー保護について誓約している。入浴・排泄・食事・整容などの日々の支援の中では、誇りやプライバシーに配慮してさりげなく行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームのおおよその流れはあるが、本人の状況や希望に沿って起床・就寝・食事・入浴・買い物など個々のペースで支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	頂き物やあるものを活かしながら、みんなで献立を決めている。利用者は食事作りや後片付けに、自分でできることで参加している。職員も同じ食事、同じテーブルと一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は本人の希望に沿って支援している。その日の体調も勘案しながら、入浴の順番や時間など意向を踏まえ、楽しく入浴できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手すり拭きや洗濯物のたたみ・食事の準備・後片付け・茶碗拭きなど日常生活の中で役割を担ったり、カラオケ・折り紙などの楽しみごとや散歩・ドライブなどの気晴らし支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にホーム自慢の安心・安全な散歩コースで散歩を楽しんでいる。また、気持ちを活性化するドライブ支援も気軽に行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけると自分は閉じ込められたらと思って興奮してしまうので、日中は鍵をかけていない。外出をしたそうな人がいたら、散歩を一緒にするなどの支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火・防災マニュアルを作り、消防署の協力を得て年2回の避難訓練をしている。家族など地域からの参加もある。非常時の備蓄もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	関係施設の栄養士の助言を受けながら、栄養バランス・摂取量に配慮した食事を作っている。水分摂取など記録をとり、確保できるように支援している。個々の状態に即して刻み食やとろみ食など工夫した食事作りをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	診療所を改造したゆったりとした空間に、廊下・食堂（リビング）など生活感・季節感のある雰囲気作りの工夫がしてある。採光・換気にも気配りがなされ、適当な音量の音楽が流れ、居心地よい共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やぬいぐるみ・家族の写真・ラジオ・CDラジカセなど好みのものを持ち込み居心地よい生活の場作りがなされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。